リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	溝部 エリ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2コマ続けてのオンライン授業であったため、授業が緩慢にならぬよう、学生の集中力が途切れないよう授業デザインに工夫を凝らしました。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>自発的学習、積極的主張が育まれるべく環境を整えたが、なかなか学習への取り組み、意欲の改善はみられなかった学生もいました。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性においては問題はないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

項目ごとに常に確認をし、理解の把握を図い、課題に関しても高等教育課程の位置づけの中で自発的学習を行えるよう、内発的動機付けと主体的な学習態度を獲得すべく、方策を試みましたが、自主学習に繋がらなかった感が残ります。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	溝部 エリ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>フィードバックを丁寧に具体的にを行うよう尽力しました。そこからまた、授業の中での課題を見つけ、研鑽を行う術を細かく提示していくような授業デザインを行いました。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>実践的な授業課題の多い中で、ほとんどの学生が自身課題をピアで学ぶ姿勢が身に着いたことが十分に伺えます。何よりも積極的に準備、研鑽を積む努力が充分に見られ、目を見張る成長を感じられる学生がほとんどでした。第二言語習得を促す上でも母語である日本語への気づきはそれぞれの学習過程による学びを与えるものと考えます。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性に関しては問題はないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

毎回、測り知れないほど神経を使い、10分おきにくどいほど、理解への確認、質問などないか、多くの学生にはくどい印象さえ与えてしまっていたと本当に申し訳なく思っています。ことばのやりとりは相手に対する配慮と尊敬から生まれてくるものと信じます。また、客観的、具体的、是正を平等に行うことは実習を行う上で最も大切なアプローチに他なりません。様々な接触場面において、相手の立場に立ち、常にやさしい、謙虚な気持ちで聴く姿勢をもつこと、日本語教育の根幹とも言えるこの基本的なことを伝えきれなかったことは残念でした。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3~4	三期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、教職課程を履修している学生が3年後期から4年後期にかけて履修する科目であり、教育実習がより効果的に実施できるように、その事前事後に履修することになっているものである。そのため内容は、中学校、高等学校の英語教員による講演を聞いたり、教育実習に行った先輩の話の聞いたりした後討論を行ったり、模擬授業を行い、互いに講評したりするなど、実践に即したものになるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準レベルを超えており、到達度自己評価についても全員が肯定的な回答をしていることから、教育目標を達成できたと考える。毎回レポートの提出が義務付けられており、全員提出し内容も基準を満たすものであった。また、模擬授業の実施や教育実習についての報告もきちんと行うことができた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価について、1、2名の学生が3つの項目について「全くそうではないと思う」「少しそうではないと思う」と回答した以外は、概ね肯定的な回答をしている。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目に否定的な回答をした学生が1、2名いた。実際には授業中に質疑応答の時間をとったり、少人数で話したりする時間は設けていたが、本年度は遠隔授業の形で実施したため、そのような活動があったことを実感しにくかったのかもしれない。本年度は遠隔授業であることを活用して、通常であれば講演していただくことが難しい、関東や関西の先生にもご講演いただくことができたことは、学生にとっては普段聞くことのできない話を聞くことができて良かったと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の意欲も高く、教育実習の前後に行う科目であるので学生の目的意識も高い。また、模擬授業を行ったり、それについての講評を互いに行ったりするため、学生が主体的に取り組む場面も多い。そのようなことから目標の達成度も高い。一方で、遠隔授業により、学生同士の交流が持ちにくかったので、一人一人が参加していることを実感できるような活動を工夫する必要があったと思う。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職実践演習（中・高）	4	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は教職課程を履修している学生にとっての必修科目で、それ以外の学生は履修していない。よって、受講生の受講動機や学習準備業況には大きな開きがないので、共通の目標や内容をもって指導するよう準備した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、全員が概ね理想的レベルに達しており、目標は達成できたと考える。また、到達度自己評価についても全ての項目について全員が肯定的な回答しているので、教育目標は達成できたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP, カリキュラムマップ上の位置付けから見ての内容的妥当性

本科目は、教職課程の必修科目であり、教育実習での学びを深めるための科目である。受講生は教育実習で一定の成果を上げ、本科目においても概ね良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。

②DP, 行動目標から見ての内容的妥当性

教育実習の評価や本科目の成績評価から、態度、技能表現について一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ

以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

全ての項目について、全員が肯定的な回答であった。今年度は従来通り対面で実施することができ、学生同志で直接話をするなどの活動を行うことができた。授業の中で学生が主体的に参加する割合が多い講座であり、ほとんどの学生が比較的積極的に参加していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

すべての学生が一定以上の成績を得られたことから、この科目が一定の成果を上げたと言えると考ええる。今年は従来通りの形で授業を実施することができ、授業者にとっても学生にとっても、昨年度に比べてやりやすい面が多く、学生の評価も成績も良好であった。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、新約聖書の基礎であるイエス・キリストの生涯と教えや弟子の働きについて理解を深め、キリスト教が世界に広がった経緯について学ぶことを目的としている。新約聖書を土台とするキリスト教の行事についてグループ発表を行い互いに視野を広げ、最後には1年間のキリスト教の学びの集大成として建学の精神である「感恩奉仕」について個人が向き合い考えを深められるよう、毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形態での学びを工夫した。</p> <p>②毎回の授業中に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、チャペルポートフォリオを導入し、毎回のチャペルのまとめを記入するようにした。チャペルでの学びを、総合的に把握することができるようになった。</p> <p>③学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、一年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何を受け取ったのか把握できるようになった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(4.3)、知識理解に関しては(4.4)であった。到達度の自己評価の平均値は(4.3)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの視聴率約80%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えます。</p> <p>また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標がやや達成されたと言えます。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価についての平均値は(4.4)であった。遠隔授業においてもチャペルポートフォリオを導入したことは、チャペル体験へのサポートとなった。チャペル出席はキャンパスライフにもあるように、1年間をとおして3分の2の出席を必要としている。

本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.0、「学生の意見を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均は(4.3)であったが、2年次以降も学生が聖書を開いて日常生活に取り入れられるよう、仕組みを作りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、通常では、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。今年度ははじめての遠隔であったため大人数ということもあり、グループ発表をすることができなかったが、次年度は工夫して、大人数で遠隔でも発表できる手法を獲得したい。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に意識できるよう促すことが課題である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学での学びの質を高めるためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を身につけることができ、自らが積極的に課題を探求し、他者と相互に学び合う関係を築くことができることを目標としている。初年次セミナー同様、去年まで専任教員2名で担当していたが、今年から私が一人を担当することになり、新たに変更したテキストの後半を使用した。また副教材書き込みテキストの後半も使用させ、完成させた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の到達度自己評価を見てみると、平均値が、(1)4,2(2)4,3(3)4,1(4)4,1(5)4,2(6)4,1(7)4,1(8)4,3(9)4,2(10)4,2であるので、全体として「やや達成された」と評した。コミュニケーション能力や表現力を問う(8)において評価が高いのは、後期のプレゼンテーションがグループプレゼンテーションであったことの反映だと思われる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>基本的なスタディスキルズを講義と自学の教材で学習したという点ではDP1は達成しており、またDP3,4においても以下に紹介する学生の自由記述の一部より達成されたと思う。フィードバックの自由記述欄では、前期の個人プレゼンは違い、グループでプレゼンを行ったことでの難しさや学びに関するコメントが15つ挙げられ、グループとするプレゼンをきっかけに、グループワークや協働の大切さを学生が体験したことがうかがえた。例：「今回初めてグループプレゼンテーションを経験して、他の人の意見と自分の意見を合わせていく難しさと自分ができないところは他の人が負担してくれたりして協力することの大切さを学ぶことができました。」</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>まず前期には以下のような学生の意見と教員の回答があったことを振り返りたい。学生の意見：1もう少し宿題の範囲を明確にしてほしかった。2パソコンの使い方をもう少し勉強して欲しいです。3夏休みはパソコンを見ずに目を休める日を作りたいと思います。教員の回答：1宿題は、シラバスの1番下に明記していますし、そのことは何度も説明しました。2教師がパソコンについて勉強不足、ということですね。すみません、最後の学生のGoogleスライドでの発表でトラブルが起きた時に技術的にお手伝いできないことがあったかもしれません。本番でデータが出てくるようにご自分で何度も予行練習を行って確認しておいてください。3、そうですね。お疲れ様でした。（この授業は対面でしたが。）今年の見解：後期には前期のような意見は出なかった。プレゼンをパワーポイントではなく、Googleスライドで事前に送信しておくことを指示したことでパソコン操作がスムーズにいったことが原因だと思われる。しかしながら、パワーポイントというツールを前期に使用した体験は学生にとって有意義であった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>前期には個人で、後期にはグループでプレゼンを行ったことで、学生にとってバランスある学びになった。教材や副教材は今の所適切であると思うが、特に書き込み式の副教材については今後もっと有効な使用方法がないか研究していきたい。書き込んでいく中で、授業の中でもっと学生同士の共同作業を促したりして活用する方法を模索したいと思う。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者は、学期の始講と最終講にて体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握と実体験できるようにした。実技中は全員準備されたカロリーカウンターを装着し、実技中の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーの関係を体感してできるだけ把握できるようにした。</p> <p>また、始業から3回の講義では、「筋力トレーニングの方法と機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした運動強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外や放課後に自ら運動処方ができるようにした。</p> <p>授業中は装着したカロリーカウンターを基に、自己の運動量の把握をした上で目標運動量を見出し、運動意欲を喚起した。その毎時間記録と評価は、学期末でまとめ、実習期間全体の取り組みを自己評価し、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係を体感し理解できるようにした。</p> <p>生涯スポーツでは、生涯に渡る運動習慣や運動的趣味の獲得を考慮し、地域等で行われているスポーツのチーム戦を想定した種目を取り上げた。また、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを意図的にを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションを図れる様にした。ゲームではチームミーティングを頻繁に行わせ、戦略立案や実行とチームの中での個人の行動法を実行し、より積極的に実践的スポーツができることを心がけた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない			どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は87±3.6点で、再試対象は1名であった。</p> <p>ほぼ全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは26名/26名（100%）であった。</p> <p>目標達成できたと答えた総数は19人中19名であった。</p> <p>「自己達成度」は平均値が全項目で4.3～4.6の間(中央値5.0)にあり、「授業の質の評価」も4.2～4.6であった。コロナ禍の影響と思われるが思ったより多くない。</p> <p>予習、復習の課題が少なく、授業以外での取り組みは積極性は感じられない。</p> <p>シラバスの情報を参考にした者6名/13名と低かった。</p> <p>欠席する者は少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について

本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には妥当な内容であったと考える。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性について

成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。

③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は60名(60人中)が達成できたと考えており、本科目が妥当な内容であったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予習を全くしなかった者が11名(19名中)であった。

毎回授業で関心が高まっていれば幸いである。

シラバスを参考にしなかった者が7名(13名中)、授業計画を立てなかった者が6名であった。

オリエンテーションにて十分な説明をしなかったせいなのかシラバスの利用者は13名と少ない。

次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。試験前に、授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。試験の結果からみると、得点分布は上位にやや傾きがあり、ポイントはおおむね理解していることが確認された。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。他学科も合わせると人数が多いのが課題であるが、今回はオンラインだったので、ネット上で質問を投げかけ、双方向的なやり取りを確保した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の歴史を学ぶことを通して国際的なジェンダー平等についても知識を広げたいと、日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>現代社会においてなぜ文学を学ばなければならないか、まずそこから学生に解かねばならない。その理由と目的を理解させることから始めた。つまり「文学とは実学である」ことを中心軸に置き、学生自身の生活、選んだ専門分野を重ねて鑑みることによって、日常触れている表現、言葉、歴史、心、歴史、時代性、古典等々の事柄がすべて繋がってゆくものであり生きていく上での自身のアイデンティティと切り離せないものであることがわかるのである。そういったことをベースにして文芸学の諸問題を実例を掲げながら考察するものである。私たちがドラマや映画を見て感動することは即ち自分自身の人生を客観的に眺めていることと「文学」が同じであることであることを学生が実感することがまずは重要である。ここまでが第一の重要点である。そして次にいよいよ文学作品の消化である。どう感じるかには正解はないが、なぜそう感じたかが、最も大切である。そこに時代性を重ねて鑑みることによって古典を学ぶことができる。愛情と一口に言っても時代によっては表現もちがう、言葉も異なる。ましてや国によっても異なる。太陽の色まで理解の仕方で異なる…そういったことをどう理解し、どう考察するのか。だから、文学は実学であるというのである。私の講義においては学生は少なくともここまでは理解している。またこの度、前述していることをさらに深めるために「文学と性教育」という新しいテーマを掲げ、「性」とは「こころざしを持って生きることであり、本来の性教育（欧米）が目指したものは広範囲な人間教育（全人教育）が中心である」ことが大変重要であるので、若い世代が新たな価値観を形成してゆく一助が性教育の本来の目的であるという説明を行った。この様に正しく理解して初めて正しい表現が出来ることを教示したが、一部の学生に伝わらない部分があったようで、今後は説明を分かりやすく改善しようと思う。</p>
--	--

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>時折感想文を提出してもらったこともあったが、学びの自覚が感じられ、文学作品を理解する意気込みは感じられるものが多かった。それは講義を重ねるごとに感じられるものであった。数字にするならば80%ぐらいである。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、良かったと思っている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

リモート講義ではあったが学生たちの集中は途切れることなく反応はかなり良かったようである。学生の調子や講義の内容によって部屋を変えて講義することもあったため、板書が見えづらい学生がいたかもしれない。学生本人の機器の不調を訴えるものもいた。また私の所有する国の文献等々も本来は実際に見てもらいたかったがコロナのためまならず残念であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況の総括的評価としては、かなり良く、80%である。さらなる高みをめざして検討をかさねてゆきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。例年言えることだが、関連分野以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくいことが課題として挙げられる。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」を動機とする回答が観光文化学科88.9%、看護学科100%に対し、英語学科では54.5%、福祉学科では75%と、学科によって開きがあった。開講時点で関心意欲がそれほど高い受講生もいることはある程度想定していたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。</p> <p>②本科目では授業によってが、専門的な用語が頻出するため、毎回の授業の終わりに授業のまとめ問題を行わせ、授業内容を復習してもらった。今年度は14回すべての講義がオンライン授業のため、毎回の授業の課題としても提出させた。</p> <p>③授業の内容だけではイメージしにくい、「差別」そして「異文化対立」に関する具体的な映像を見てもらい、それぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。</p> <p>④今年度の授業では受講者にテキストを購入してもらい、授業の前に関連個所の予習をしてもらった。特にテキストの中にある日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせ提出させた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目は4つの学科にそれぞれ所属する学生が受講していたが、トータルして最終的な成績の平均値は80点以上であった。さらに再追試対象となる学生はいなかったため、全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り80%以上であった。学生の到達度自己評価に関するアンケートでも、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.1であった。</p> <p>態度についてはオンライン授業の必須である毎回の課題や、複数回実施したレポート問題の提出が遅れる学生が一部みられた。ただその原因が当人の態度に問題があったとは言い切れずネット回線のトラブル等の本人にはどうしようもない原因もあったため、提出が遅れた学生にはなぜ遅れたのか理由を書かせて再度提出してもらった。</p> <p>前年度の課題であった学習量の評価では「授業前の予習に30分以上かけた」と回答した学生が4学科合計で半数以上であった。前年度は半数にも到達していなかったため、大きな改善がされたといえる。今年度はテキストを購入させたことがこの結果につながったと考えられる。次年度もさらなる向上を目指していきたい。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性
本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考ええる。

②DP、行動目標からみても内容的妥当性
「知識理解」に関する達成度は4学科平均4.3以上と高い結果であった。「態度」に関する達成度は看護学科だけ平均値3.5だったが、それ以外の学科は平均値4.4以上であった。一部の学生によるオンライン授業課題提出の遅れ等の問題もあったが、学生たちの成績も一定以上であった前年度を上回っており、内容的には妥当であると考ええる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業評価においては、全ての評価項目で「そうでない」と回答した学生がほぼ無く、全ての項目において高評価が得られた。前年度の課題であった「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の回答の平均値も前年度を上回った。今年度は対面授業に切り替わるため、確認チェックに関する学生の意見を述べる場の提供やグループ討論を実施していきたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

今年度は全ての講義がオンライン形式であり、対面形式のように学生が積極的に意見を述べる場を設けることや、授業内容に関連して学生の反応を見ることが困難であった。それでも全体的な成績の平均点が前年度を上回ったこと、知識理解、態度といった学生の到達度自己評価の平均値が前年度より向上したこと、学生による授業評価がほぼすべての項目で高評価であったことは大きな収穫であった。課題点であった授業前の予習量も（まだ半数以上ではあるが）大幅な改善がみられたことは予習復習も含めて授業の質を高めるという意味での目標が達成できたといえる。
課題としては復習時間のさらなる向上が挙げられる。この点に関して今年度は、授業の中で行っている小テストの範囲を事前に予告することで、学生にこれまでの授業内容を積極的に復習してもらう予定である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語発展	1	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語発展の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の12.5%を除いて、③「関心のある内容である」は50.0%で、「資格取得に必要である」は37.5%であった。これらのことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。</p> <p>2. 実際の受講人数が14名で、語学の初級としては妥当と思います。学生一人一人に対して指導ができました。</p> <p>3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、今学期は事情により、Meetの遠隔授業を行うことになりました。画面を通して学生たちが積極的に参加しました。ただし、対面授業と比べて、不足部分もあります。今後の授業で、できる限り教師と学生の間だけでなく、学生同士の間での会話場面や機会を増やしていくことに工夫したい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. A評価は2名、B評価は11名、C評価は1名であり、最終的な成績の平均値は「85.5点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル（遠隔の定期試験及び平常点の総合として80点以上）に達していた。</p> <p>2. (DP-1)の知識理解、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。</p> <p>3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週3回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。4. 自発的学習については、中国語の動画アプリやネットで関心のある内容を自ら調べて学習することが評価するべきです。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の学習到達度評価をみると、①「自分なりの目標を達成した」は平均点4.3点、②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.3点、③「専門分野について、深めたい意欲を持つことができる」は4.4点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、各項目の平均値は4.5以上に達していて、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。
2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。
3. 「図書館やインターネット等の利用」は、遠隔授業の影響で、インターネットの学習がかなり利用したことが見られて、いい結果であります。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 中国語発展は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。
2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。
4. 実用性のある語学資格の取得を目指します。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル発展	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が100%を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては皆が完成度の高い内容の課題を出せるようになった。到達度自己評価の多くの項目において、平均値も中央値も4-5であることから、教育目標は到達したと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義は語学学習を通じて韓国という国、地域、社会や歴史に興味を持ち、言語に現れる文化などの違いを理解し、また、習得した韓国語を実際に話してみることによって、異文化圏の人々との相互理解の一助になるものと考え、カリキュラムマップにおける本講義の位置づけからみた内容の妥当性は問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進度は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。結果、授業の質評価では中央値5の評価が得られた。履修すべき語学の目標レベルには十分に達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける一助になれたのではないかと考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	岡本 正宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①ほとんどの受講生は、1年前期の情報処理基礎を受講しており、学生のこの授業の受講動機の80%は、関心のある内容であると答えている。</p> <p>②この講義は、コロナ禍以前は、EXCELの高度情報処理とデータベースソフトACCESSを用いたビッグデータ処理であった。</p> <p>しかし、コロナ禍の2022年度後期のこの授業は、対面ではなく、オンラインで受講させることになり、データベースソフトACCESSを個人のPCにインストールさせていない学生が多く、また、WindowsとMacユーザーが混在していたため、EXCELの高度情報処理とEXCELピボットテーブルを用いたデータ集計・分析とした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績は、Sが4/5(5名中4名)、Aが1/5(5名中1名)で、非常に良い成績であった。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP1の知識理解については、(1)自分なりの目標を達したが3/5がかなりそうだと思う、2/5がわりにそう思うで、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができたが、2/5がかなりそうだと思う、3/5がわりにそうだと思うと回答している。

DP5の技能表現については、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができたが、3/5がかなりそう思う、1/5がわりにそうだと思うと回答している。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

コンピュータの演習を対面授業と遠隔授業で比較することは難しいが、遠隔では、学生の質問の数が対面の時よりも多く、個人授業のように気軽に聞けるようであった。ただ、授業内容があまり高度にできず、理解が早い学生にとっては、物足りなさを感じているような意見も出た。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

2022年度は、対面で講義をできる予定なので、コロナ禍以前のように、EXCELの高度情報処理とMicrosoft ACCESSを用いて、ビックデータ処理の講義を行う予定である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、3年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では2つの項目についてそれぞれ1名の学生が「全くそうでないと思う」と回答しているのを除いては、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、2名の学生が「全くそうではないと思う」と回答している。遠隔授業の形態での実施で、250名を超える受講生であったため、学生が発言することもできず、チャットで意見のやり取りを行うこともできず、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができなかったので、対応に苦慮した。その部分を補完するため、Googleクラスルームやメールで常時質問等を受け付けるようにして対応した。学生の反応が見えないので、ほぼ毎回小テストを行なって、授業内容が学生に伝わっているかどうか確認しながら実施した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域プロジェクト	2	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As the syllabus states, this course was crafted around community involvement and current environmental issues. Using Sustainable Development Goals (SDGs) as a backdrop, and a number of community NPO activities as a focus, we created activities and materials to highlight the issues which these groups are seeking to fix. One major project was built around the plight of the Sone Higata wetlands in Kokura Minami-ku, and what is being done to protect the wildlife there. We did this using English roleplays which the students wrote, and performing them on video using PowerPoint. We also worked on creating English versions Karuta cards to match Kitakyushu City's Geo Karuta. Students also carried out their own research projects.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>This was a very good class. Grades showed a range from a minimum of 70% to a maximum of 95%. The average grade was 83.7% with a standard deviation of 8.73. Grades were largely determined by effort and results in activities, with a final scoring based on their final presentation. No students failed the course other than 3 who dropped out. Despite being online, this course actually went extremely well.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, the students showed great willingness to participate (DP3) and had a very positive attitude to their studies (DP4), even when online. Their knowledge and understanding (DP1) of the issues definitely increased during the course of the class. With these in mind, it seems reasonable to assume that all three DP goals were well achieved.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The biggest issue for this class was the shift to online instruction, and the inability for outside speakers to join us because of the COVID-19 Pandemic. However, we had two excellent projects which we will continue for the coming year. Doing these projects also gave the students opportunities to participate in outside conferences and meetings so it was well worthwhile. For 2022, we will be collaborating with Kanko's course to work on shared projects.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

For the coming year, we will again focus our assessment on the activities completed and the efforts of the students to complete tasks in a collaborative and creative way.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義及びインターネット動画の鑑賞によって知識を得るだけでなく、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。コロナ感染拡大防止のためにすべての授業はオンラインとなり、外部講師の講義もオンラインでの受講となった。そのため、チャット機能やグループフォームを活用し、随時学生からの反応を得ることができた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。従来の課題は受講者人数が多いために個別的な対応ができないことであったが、本年度はオンライン授業の利点としてチャット機能などを活用し学生の意見を諮ることができた。次年度は対面で学生との活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践キャリアプランニング	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、キャリア形成のために様々な知識を身につけておくことの重要性を理解してもらい、担当者の専門である社会学の知見を基にして自身のキャリアについて考えてもらうことを目的としている。本学科は、アンケートの回答者数が少ないため、全学科を合わせた傾向でみる必要があるが、「受講動機」では「関心のある内容だから」が多くなっており、本科目の意義についてはシラバスを通じて概ね伝わっているものと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>毎回、講義のあとに感想や自身の考えをコメントするよう求めたが、ほとんどの学生が真面目に受講し、自身のキャリアについて真剣に考えていることが伺える内容であったことから、本科目の目標は概ね達成できたと考えられる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

アンケートの「自分なりの目標を達成した」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」などの項目で肯定的な回答が高い割合を占めていることから、内容は概ね妥当であったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

アンケートの結果から、受講者の多くが本科目の予習や復習にはあまり時間を割いていなかった。自由記述の結果から、今年度は遠隔授業により学生の負担が増加していたことが伺える。学生にあまり負担をかけないよう配慮をしたつもりであるが、それは適切であったと考えられる。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

アンケートの結果から、総合的にみて本科目の目標は概ね達成出来ていると考えられるため、次年度に大幅な内容の変更は必要ないと考えている。コロナの影響などで社会に様々な変化が生じている中で、今の情勢に応じた内容の講義となるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>実践英語音声学Ⅱは、前期の実践英語音声学Ⅰに続く科目で、英語学科1年生後期の必修科目である。音声学については大学で初めて学ぶ学生がほとんどであると思われるが、前期で音声学に関する素地ができており、後期はさらに実践的な演習や発音練習を多く取り入れ、わかりやすく役立つ授業を心掛けた。同時に、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>受講学生のコメントには「大学で習っている授業の中で一番英語を習っている実感が湧く授業でとても楽しかったです。」「学んだことを大切にしながら英語を発音します。」などの意見があり、学生たちは積極的に授業に参加し、その後の英語運用にもつなげる努力をしていることがうかがえる。今学期の授業を通して学習した発音やリズムに関する理論や方法を、今後の英会話や英語学習において日常的に役立て活用することを期待している。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.8、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.8、「説明は理解しやすいものであった」は4.8、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.7、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.7と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.7、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.5と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および音声認識力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語の発音やリズムの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションII	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 前期で学んだことを利用しながら新たな知識を身につけていく科目であるが、前期の授業である「グラマー・コンポジションI」の習熟に大きな差があったため、既習事項もわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。</p> <p>② 毎時間復習テストを行い、学生への復習への意識を高めるとともに、学生の理解度を把握することに努めた。</p> <p>③ 復習テストで明らかになった学生の課題について毎回解説した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	ほとんどの学生が標準的水準を超える成績に達していたので、教育目標は概ね達成したと考える。また、到達度自己評価についても、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」という項目については、それぞれ1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。科目の特性上、職業については直接的に触れることが少ないため、このような結果になっていると思う。					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。

② DP、行動目標からみでの内容的妥当性
成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1名の学生が「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目については、「少しそうではないと思う」と回答していること以外は、肯定的な回答であった。授業時間の3分の1は、文法項目や演習問題について学生からの質問に答える形で行っており、学生が参加する機会は十分あるが、そのことは「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」とは、捉えられていなかったようである。講義の部分ではスライドを使用し、学生が予習や復習にも使えるようにGoogleクラスルームでいつでも見ることができるようにした。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

小テストや試験の成績、授業中の学生の質問や発言から、基礎的知識の定着については、概ね達成できたと考える。予習や復習については、例年に比べ学習時間も回数も増加しており、そのことが成績にもあらわれている。課題が多いことを負担に感じる学生もいたため、学修の項目を少し絞るなどして改善した結果、物足りないと感じる学生もいたようだが、概ね適切であったと考える。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>One aim of this course was to introduce students to the TOEIC test and question patterns, to provide chances to learn useful vocabulary and grammar to be successful on the test, and to practice answering test questions. In addition to this, the course aimed to help students think about how to improve their English skills in general in order to be successful on the test, and also how to create and put into practice self-study plans aiming to achieve personally identified learning goals. To achieve the latter, a self-study homework assignment task was used in which students identified their own study goals, set their own learning tasks each week, and reflected on their performance. In addition, various self-study methods as well as learning tools were introduced to the students.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The majority of students engaged well with the course activities, materials and assignments, and made progress towards improving their English skills and understanding how to perform successfully on the TOEIC test. The fact that the course was conducted entirely online made it difficult at times to provide enough personalized feedback, and also led to a rather rushed time during class which I tried to overcome by providing written personalized feedback and being available after class to respond to questions, however this is a point I would like to address better in the future.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course was conducted entirely online, it was sometimes challenging to accurately measure students' levels of understanding during class time and to provide them with necessary feedback and support, although I did experiment with a number of different ways to achieve this throughout the semester. This is an area that I would like to continue working on when teaching this course in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall I felt that the majority of the students achieved the aims of the course, and many of them responded with information about how they were engaging with their English studies in addition to the set assignments, indicating that many of them were also engaging with individual goal setting and self-study, which was one of the aims of the course. Of course the type of support that each student requires differs, and the online teaching environment makes it more difficult to attend to this, however this is something I would like to think about how to achieve better in the future.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC演習Ⅱは、英語学科2年生後期の選択科目である。TOEICはこれまでに受験したことのある学生も多く、英語力全般を高めるとともにTOEICの試験の特徴を踏まえ、さらなるスコアアップに向けたスキル向上の指導に努めた。</p> <p>わかりやすい授業を心掛けるとともに、実際のTOEIC試験や他の資格試験、日常英会話などでも実践的に活用できる知識とスキルの指導を心掛けた。</p> <p>TOEICのさらなるスコアアップを目指すため、授業は予習を前提に進めていく。そのため、学生たちは積極的に予習・復習を行い授業に参加していた。</p> <p>今年は新型コロナの影響でTOEICの公式テストの抽選漏れで受験できない学生が多くいたため、来年度に受験の機会を掴んでほしい。受験した学生の中には受講後に900点のスコアを出した学生も出ており、学習の成果が見られた。</p> <p>引き続き、学生たちが今後も英語学習に努め、今回の学習成果を活かしてスコアを伸ばしていくことを期待している。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.6、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.7、「説明は理解しやすい物であった」は4.7、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.5と概ね良好であった。
授業を受ける前に比べ、授業後に受講したTOEICのスコアは多くの学生で大きく伸びており、今後さらに学生たちの英語力が伸びる指導が行えるよう力を尽くしたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力およびTOEICスコアの向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションII	2	後期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Although we had hoped to make this course face-to-face in 2021, we once more had to carry it out online. This is unfortunate because the students found it difficult to reach their potential in this situation. We continued with the self-paced learning course with students moving through the material and not being able to access advanced material until earlier assignments had been completed. During that time, students had to attend specific workshops on skills they needed to learn. We still ended the course with a final project presentation, but, again, their level improved immensely!</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Class A achieved an average grade of 70.54% while Class B achieved 87.50%. Lowest passing score was 63%, highest was 97%, with a standard deviation of 25.55. These lower than previous grades were caused by an unusually high number of students dropping out of the course. Each section of the course was divided into tasks that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. Grades were overall lower than the previous year, mainly because of the dropping out mentioned earlier.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Knowledge and understanding (DP!) of the design and implementation of good presentation remained strong. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their generally positive attitude covered DP4. Overall, the students who passed the course satisfied the criteria of all the DPs.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

What is needed for the coming year is more focus on research and finding a deeper level of material for their presentations. Although their presentations and performances has been much improved, the content of what they work on still needs much work. Research-based activities should help alleviate some of those issues. Much of this can be addressed with the classes being face-to-face this year.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As a large part of assessing presentations is based on their performances, this has once again been harder to assess fairly this year. Thankfully, the return to face-to-face classes in 2022 will help with the issues we have faced.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Skills". We used the textbook "UnCover" from Cengage which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in the CHleru e-learning programmes for developing general skills. They also participated in our annual Zion Cup English Contest, preparing a speech, practicing it, and trying to achieve success in the department-wide contest.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, in A class, grades ranged from 60% to 94% with an average of 84.4%. Standard deviation was 7.37. For class speeches, all students prepared well and were able to present competent speeches to the class.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, and students were able to make steady gains. The only area of concern in these classes is once again maintaining a constant and ongoing study discipline. Students often use a leaps and bounds approach, whereas small and steady gains will help them achieve much better language competency.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the next year include a greater focus on fluency, pronunciation, and preparation. The students generally do very well, particularly with the limited skills they possess in the first year. However, they need to build their communication skills, not just in the classroom settings, but in their general application to language studies. With the return to face-to-face classes on campus, a lot of these issues will be resolved.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Assessment continues to be a focus, as by offering transparent and ongoing evaluation, we better empower the students to achieve the goals both they and the college set. We continue to work towards allowing students a role in self assessment. This will be an ongoing project as this is a process the students have little experience or confidence in.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a Communication based class. In this class, students practice reading, writing, listening and speaking, but the bulk of the activities were speaking based. In addition to the use of dialogue drills for listening and speaking, students also practiced with information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building exercises. The textbook exercises, along with supplementary communication activities, helped students review and reinforce their basic English skills. None of the learning conditions were significantly effected by online learning, as the teacher was able to accommodate all forms of practice through pair work, small group work, and large class activities through real time online lessons.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Assessment was made based on attendance (15%), small and large group participation (30%), quizzes and presentations (35%), and a final test (20%). Most students were able to achieve a final grade of 70 - 80%.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students took advantage of helping and receiving help from other class members, and by working together in small groups. Good classroom dynamics helped to create a positive and "safe" class atmosphere in which students feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. None of the normal learning targets in this class were significantly effected by online learning, and students progressed noticeably and had little if any difficulty succeeding in their online studies. While a lot of material was covered over the course of the semester, students seemed satisfied with pace and progress of the class.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

In a normal classroom environment, review of the previous class material is useful, but often took time away from new class material and practice. With online learning, students who needed to review the previous class material had unlimited access to material and lessons posted on Google Classroom in previous weeks. This proved to be especially helpful for lower students who benefited from reviewing target language and skills for each unit at their own pace.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

More detailed instruction on note taking, completion of homework and lesson review may help keep students focused on clear objectives for each class. After initial instruction, students should be encouraged to review lesson targets again, and prepare for the next class using the posted review material and preparation homework.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As this is a communicative course the fact that we could hold the classes face-to-face was very beneficial. Non-verbal aspects play an important role in communication and this was much more successfully achieved this year. Being able to interact in person is an integral part of the course. Not only does it intend to improve the students' communicative ability, but also to build a community amongst the students. This increased interaction allowed the students to appreciate the course more and to have more success.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The goals for this course were achieved overall. Almost all students received either an A or S in the course, which is indicative of their effort and interest in the course, as reflected in their evaluation of 4.6 and 4.5 respectively.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course is well placed on the curriculum map and serves as an important step towards the other communicative classes. Seeing that the students had a positive attitude and interest in the course is a good indicator for future communicative courses. It also helps to create a sense of community amongst the students.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The class is highly evaluated and plays an integral role in their preparation for further communicative classes. The course works well at the moment and there is no need for any major changes. Previously there had been problems with students who were not highly motivated and whose skills were lacking, however this year that was not the case. They all had a good attitude and tried sincerely. Perhaps showing how what they learn in this course can be applied in their other classes and future classes made the material more relevant to them.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The course was a success and generally provided a good grounding of communicative skills for future development. The students did well and their attitude and performance was very positive. It is hoped that they will apply these skills in their future studies.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Leaver Soren Eric

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、時事問題についてのディスカッションに重点をおいておりました。学生は準備を十分にして授業にのぞんでいました。学生の参加意欲はやや高く、英語での世界的なイベントに関するリサーチをおこなったり、その詳細に関してプレゼンテーションをしました。英語を使って学生がディスカッションをする機会が授業のなかで多く取れたと思います。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成されなかった	達成されなかった		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	全体としてのトータルの成績、理解も良く、準備もできておりました。インターネットの利用も理解し、課題提出もよくできました。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

このクラスにおいて学生たちは、それぞれのプロジェクトの選択と研究に挑戦し、継続的な努力の結果、授業の要件を満たす情報源を見つけることができました。このような自発的な学習方法自体にも利点があると思われることから、DP上の位置づけは妥当だと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の授業では、私の教え方は効果的でした。学生とのコミュニケーションもよくとれていたと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

このクラスの全体的な進行には満足しています。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This active learning course is divided into discussion and presentation based learning. Through active listening and reading comprehension activities, students have the opportunity to learn about relevant social issues which are currently being discussed on a global level. After gaining an understanding of an issue, students are guided through intermediate level discussion and information gathering activities, and learn key language to express individual opinions as well as respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. Finally, students are encouraged to prepare and present on the specific topic using the language and knowledge they have acquired throughout the lesson.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	Assessment was based on attendance 10%, completion of weekly homework assignments 20%, online presentations 30%, unit quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 60-80% range.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students took advantage of helping and receiving help from other class members in small, private group settings. Good student dynamics help to create a positive and "safe" group atmosphere in which students could feel more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. With online studies, students were also encouraged to move outside of their usual cohort group to practice various forms of information gathering techniques which could be used with friends, family members and across-generations to gather ideas on the assigned topic. From this, students created original presentations which they practiced, presented and received feedback from the teacher. Due to the large number of students in the class, presentations were restricted to 2 minutes, thus limiting the depth and scope of topic research.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Online language acquisition and presentation classes can be especially difficult for both teachers and students. Teachers must pay attention to each student and ensure that they are actively involved and completing activities as requested. Students must communicate more efficiently and effectively with their teacher and classmates in order to confirm understanding or reach out for help. With small breakout rooms and strict attention, both teachers and students can be successful if diligent.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The teacher's strict attention to attendance taking as well as weekly grading and active monitoring of homework is an absolute necessity with online learning as some students need more teacher encouragement, reminding and pressure in order to keep up on assignments without the assistance of an in-class friend group. This requires an added commitment by the teacher outside of regular class time which can be difficult when attending to so many students, in a variety of classes at various universities. Time management skills, organizational skills, and teaching experience are key to achieving good outcomes.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションII	2	後期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of the course was to help students develop discussion skills and to be able to clearly present and explain their opinions about the topics under study. With the shift to online classes in the 2nd month of the semester, a lot of what would normally have been done as speaking activities had to be done in other ways to allow students to share their opinions in ways that could be checked and allow feedback. This involved having students do more shared writing type activities than we would normally have worked with.</p> <p>Teaching the entire course online added quite considerably to the amount of time it took students to complete activities. However, the majority of students seemed to make a concerted effort to complete the required work, and were able to work through the course satisfactorily. Student attendance was good, and the students mostly managed to meet the course requirements. Overall they displayed good understanding and ability to work with the course content.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Being online did present some difficulties here but as we worked through things and became more familiar with the possibilities of various systems and online applications, students seemed to have developed here. Two students failed to complete the course requirements. Of those who passed, the average score for the class was 90 (sd =5, n=13).</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students were generally focussed on the course content and worked to complete the assigned exercises as best as they could. Progress was slow at times due to the nature of the online learning situation, but the majority of students took part in the class actively, and seemed to enjoy the class. ☒

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As we were mostly online, it was difficult to keep track of student discussions. Therefore a lot of the work involved using shared documents that the students worked on in pairs or groups to exchange their ideas and present their opinions about the topics under discussion. While this shifted the focus towards writing rather than oral discussion, it provided a good mechanism to monitor student understanding and provide feedback as needed. Due to the extra time bring online imposed on moving between activities, explaining and checking understanding, etc, on a number of occasions there wasn't enough time to complete the set activities in class. This meant the activities had to be assigned for homework. With heavy workloads from other courses, this wasn't ideal but there weren't really other alternatives if we wanted to complete the set curriculum. ☒

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Continuing with online classes was not ideal. However, based on experiences from the previous year, we were able to adapt to things, and it seemed that the approaches used were appropriate for the students.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Leaver Soren Eric

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトII	3	後期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、リサーチとプレゼンテーションに重点をおいておりました。学生は準備を十分にして授業にのぞんでいました。学生の参加意欲は高く、プロジェクトとして英語での様々なイベントに関するリサーチをおこなったり、またそれについてのプレゼンテーションをしました。英語を使って学生がプレゼンテーションをする機会が授業のなかで多く取れたと思います。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	全体としてのトータルの成績、理解も高く、準備も良くできておりました。インターネットの利用も理解し、課題提出もよくできておりました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

このクラスにおいて学生たちは、それぞれのプロジェクトの選択と研究に挑戦し、継続的な努力の結果、授業の要件を満たす情報源を見つけることができました。このような自発的な学習方法自体にも利点があると思われることから、DP上の位置づけは妥当だと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の授業では、教え方は効果的だったと思われます。学生とのコミュニケーションもよくとれていたと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

このクラスの全体的な進行には満足しています。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトII	3	後期	必修	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to continue from 英語プロジェクトI and further develop discussion and research ability with challenge based learning. Four current topics were selected. Topics were examined in an active learning environment where the students discussed the issues in greater detail and completed research to gain a better understanding of the issues associated with the topic. Students were expected to work collaboratively on the various challenges and then share their findings with class members via presentations and discussions in order to offer ways to resolve the challenges that the topics face. Although this class began face-to-face, we had to change to online at the midpoint. However, the students handled this well and adjusted accordingly.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on classwork and final activities (presentations, debates, etc) in each of 3 topics as well as their performance in Zion Cup. For each topic, they could receive 20% to a total of 60%. They also received 10% for a mid-semester project, 15% for their final presentation, and 15% for participation in Zion Cup, making a total of 100%. Being online meant that attendance, apart from 1 student, was absolutely no problem, and student focus on tasks was exceptional, so final grades were high. In fact, the average grade was 86.62% with a high of 97% and a low of 72%.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

As in previous years, students showed a high level of knowledge and understanding for DP1, and due to the nature of the course, there was a large amount of judgment required for DP2. Motivation was never a problem for DPS, and all students participated well. For DP5, students called on the skills attained in previous years, and used these well. Therefore, the overall achievement of all DPs was high.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Despite being online, overall, I was very satisfied with the outcomes. The students all performed very well, and the learning outcomes were of a high standard. Some of the students commented that the amount of preparation and research was high when compared to other classes, so this might need to be evaluated in the coming year.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The system of assessment used in this course—being ongoing and task-based—works very well. Students are constantly aware of their grades, and this is an excellent motivator for improving performance. With being online again, grades were very high this year, we may need to look at more demanding standards to push them more. In a normal class situation this might not be such an issue.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グローバル英語 II	4	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This second term course focused on providing 4th year English Department students with an opportunity to improve their listening and critical thinking skills while engaging with a variety of contemporary issues. We used the excellent textbook "Skillful 2: Listening and Speaking" (Macmillan), largely due to its array of integrated online resources. Teaching in online, face-to-face, and hybrid environments has been a huge challenge for all teachers over the past two years and a tremendous effort has been made to successfully create dynamic on-demand and synchronous online environments for students. This was achieved in this course as it has been in all courses.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on passive participation, weekly class tasks, presentations, and an online workbook (80%), and a final assessment (20%). Student scores were well-balanced from the 60s through the 90s.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The skills being practiced were both practical and useful. The opportunity to improve technical skills was available for students who took advantage. The average student took the opportunity to improve their skill set in several ways.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year will be to integrate the huge amount of additional blended learning materials created over the past two years. New approaches and skills were required to successfully plan, distribute, monitor and collect the productive output of the students. This was achieved while also accurately tracking and assessing every single student up to the usual standards under the extremely difficult circumstances of the COVID-19 pandemic. I am very proud of what has been achieved the past two years on behalf of the students and the institution.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The workload this term was again double that of a usual term, but the results of the work have been remarkably successful. I look forward to returning to face-to-face classes after working so hard to maintain the academic standards of the university under such extreme circumstances.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グローバル英語 II	4	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aims of this course were to learn to critically engage with the media and news, to think about the importance of and the roles of independent media and journalism, to learn about important news stories of the past and the present and to investigate background issues in order to deepen understanding, and to further improve students' English skills. As such, the course was conducted entirely in English, students were given opportunities to engage with and discuss a wide variety of real-life materials, and there were many opportunities for student-led discussions and presentations. Although this course was conducted entirely online, the small student numbers and positive attitudes of the students allowed the course aims to be achieved.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>All students did an outstanding job in the course, showing high levels of analytical analysis and understanding of the course aims. Although there were slight differences in achievement connected to their different levels of English proficiency, all students made clear efforts to engage in English during the course and to improve their English skills which was clearly seen in their continuing improved performance in the various class and assessed activities throughout the semester.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although the course was conducted entirely online, the small class numbers and extremely cooperative attitude of the students helped greatly in achieving the course aims. Also, as the course was held online it was very easy to make use of various online and multimedia resources. I will need to consider how to achieve this in the same way when the course moves back to a face to face format.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Overall, despite the differences in their English proficiency, experience levels, and confidence, each student strived to improve in their own way, and their positive and cooperative attitudes were really key to the success of the course.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングII	1	後期	必修	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to help students improve their English reading ability. During the scheduled class time this involved doing reading and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. The XReading virtual library and LMS was used to provide students with reading material and grade out-of-class progress. Within class, students worked on reading and understanding English texts based around nonfiction themes.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Overall, levels of attendance were high. Students submitted the required work on time, and all made an effort to take part actively online. Final grades for the class were at a similar level for previous years. Approximately 55% of the students in the course scored over 90. For the A class, the average grade was 82 (sd = 13, n = 22). The B class had an average of 91 (sd = 9, n = 20).</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The class was conducted online. Students were required to read texts and answer comprehension questions at their own pace. Their progress was then checked, and they were given additional activities to help with their language learning. Out-of-class reading progress was also checked and weekly feedback provided on progress.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The aim of the course is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. This involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. Due to the ongoing pandemic, access to the university library was difficult and this was an issue for a few students, possibly preventing them from achieving a better grade. Overall, however, as in the last two years, the online XReading system has been very helpful. Once the students had a basic introduction to this, they were able to do their reading without any major problems.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングⅣ	2	後期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>特に重点を置いている点は以下の通りである。</p> <p>・文章の主旨や目的が推測できる。 詳細が推測できる。</p> <p>・意味を読み取ることができる。言い換えがあっても、事実に基づく情報が理解できる。</p> <p>・文章全体にわたる情報を関連づけることができる。関連する二つの文章のつながりを理解できる。</p> <p>・幅広い語彙、よく使用される単語の例外的な意味、慣用句的な使い方が理解できる。また、似たような意味で使われる複数の単語を区別することができる。</p> <p>・規則に基づいた文法構造が理解できる。また、難しく、複雑で、あまり使用されない文法的な構造が理解できる。これらの能力を身につけるために、この講義の受講資格は今回は設けなかったが、TOEICの教材を使いながら精読・速読の両方のハイスキルを身につけるよう指導を行なった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講生全員が合格はした。授業アンケートの到達度自己評価によると、「自分なりの目標を達成した」と感じている生徒は、平均値が4.1であったことから「やや達成された」と評した。また、学習量の評価では、33人中25人が、6回以上一回30分以上の準備をしたと回答している。これは、単語テストのための準備と思われる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業アンケートの達成度自己評価は最も高いものが(2)4.3で最も低いものが(9)3.3であった。ひたすら読解力を身につけるのがこの授業の目的であり、それ以外の付加価値 ((1)(8)(9)(10))などにはあまり焦点を当てていなかったため、内容的には評価は妥当であったと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では(1)4.6(2)4.7(3)4.5,(4)3.9,(5)4.4であった。自由記述には「単語テストやわかりやすい解説も行って助かりました」などの意見があった。また、「クラスルームにアップされた問題が写真で、印刷すると全体的に薄暗くなり、見辛くて問題が解きにくかった。写真をPDFにするアプリが無料であるので、PDFとしてクラスルームにアップして欲しかったです」と具体的な解決方法を提示してくれるコメントもあった。今後は、印刷物で配布するので、問題はないと思うが、ありがたいコメントであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今回は受講資格を「TOEIC500以上が望ましい」としたことで、それ以下の学生も受講して、いつもとは違い大所帯のクラスとなったが、ハイレベルの問題であってもほとんどの学生が、「説明は理解しやすいものであった」が平均値4、5と理解していたようで、良かったと思う。オンラインではなかなか難しい単語テストも最後の実力問題の中に組み込むことで、実力を測ることができた。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度も今までの経験を生かして比較的スムーズに授業を展開することができた。説明をなるべく単純化し、学生達にとって身近な具体的例を準備したことが、成功の秘訣であったと思う。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>講義内容は抽象度の高いものであるが、学生達は皆熱心に理解しようと努めた。授業の後には毎回リアクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。皆熱心に受講した。授業後の質問も多く寄せられ、熱心さを裏付けていた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

妥当である。英語学概論は英語学科生としては必須の科目であるが、入学直後の1年生に設置するよりも、2年生に設置するのはふさわしい。最初の1年は英語運用能力の養成を前面に出し、学科になれさせ、その後学問的な分野に触れさせるのがよい。また本学の学生のことを考えれば、1学期で言語学の代表的領域を講義するのではなく、1年かけて講義するほうがベース配分として適している。その意味でまず英語学概論を前期で実施し、後期でIIを実施するのは妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

言語や文化に対する興味を広げたり、深めたりすることが、授業の最大の目的であり、その点は十分満たされている。自由記述には「非常に興味深かった」という記載が複数あった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

この年度も学生の満足度が上がっている手応えがあった。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to develop students' ability to write well-structured paragraphs and short essays, to provide opportunities to experiment with writing essays in different genres, and to help students to become independent writers by incorporating various self-analysis and self-reflection tasks within the writing activities and assignments. To achieve this I was careful not to overwhelm students with too many assignments, and made re-writing an element of all assignments. I was also careful to provide enough opportunities to engage with writing and re-writing during class time, as well as opportunities to provide personalized feedback during class. The relatively small class numbers made this possible to achieve.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The vast majority of students displayed a very good understanding of how to structure paragraphs and essays, and made great efforts to improve their writing over the course of the semester. There were a few students who relied too much on their past understandings of writing, and who seemed to struggle with understanding the concept of a paragraph. It seemed that these were also students who were struggling with their English (writing) skills in general and who had become too dependent on online resources.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I had been careful from the outset not to overwhelm the students with too many assignments, but to rather have them concentrate for longer on a smaller number of assignments, and I feel that this approach was successful. Also, setting aside class time for writing, rewriting, and feedback giving also seems to have worked well. However, for the small number of students who seemed to have difficulties with understanding the concept of paragraphs itself, even this did not seem to help, perhaps indicating underlying issues with English proficiency and learning skills. Moving up to higher level material and course aims before steadily acquiring these skills can hinder student performance, and thinking about how to support such students, while also challenging higher level students, is an issue I would like to continue thinking about.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Overall, for the majority of students, I felt that the course achieved its aims. However, how to support lower level students, particularly those who over rely on online resources instead of really engaging with efforts to improve their underlying English proficiency, is an ongoing issue that needs to continue to be dealt with.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course is to improve students' paragraph writing skills and to introduce them to English essay writing structure, as preparation for the academic writing course in their third year. In particular, this course looks at the various types of paragraphs available to the writer so as to have students be capable of writing in various styles and for various purposes.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Two thirds of the students managed to get a grade of A or higher, which is twice the number of the previous year. Having the class face-to-face allowed more follow-up with the students and the opportunity to encourage those who were having problems. Peer editing and support is also much more effective in this setting rather than online. The lower scores reflected the effort that the students put into their work. In general the writing skills improved significantly considering the gradual increase in difficulty in complexity of getting their ideas onto paper in a foreign language without the use of translation software. Putting aside a couple of exceptions I think the course was successful in attaining its goals.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The primary elements for this course are DP1 and DP5. These DP were met for the reasons pointed out in the section above. Although DP4 is not as important in this course as the focus is not on the content of the writing as much as the need to understand the skills involved in the writing process and the collaborative aspect of peer editing and support. Although not directly instructed to, many students displayed aspects of DP4 in their writing, which may reflect the ideas other courses have instilled into them, suggesting good inter-program connectivity.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

There have been changes made to the course over the last few years and things now seem to be working well. This year's group of students were also particularly diligent and there were fewer problems of assignment completion. It is felt that no significant changes need to be made to the course itself, just the regular adaptation to the abilities and needs of the students.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The course is successful in its current format within the current curriculum tree. It is important to maintain the students' interest and provide them with regular feedback and support in order to claim success with this course.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学 II	2	後期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラムになり選択科目になったとはいえ、選択肢が少ないので、文学を勉強したい学生もそうでない学生も受講することとなり、受講動機として③④が78%である。必修ではないが、受講人数を見てみると半分以上の学生が選択していることがわかる。どのような学生にも文学の知識や楽しみを教授できるように工夫している。しかし残念ながら⑦先輩に薦められて受講したと選択した学生はいなかった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価においては、(3)(5)で4.2であり(1)(2)(4)(6)(7)で4.3で概ね高かった。(9)は3.6で毎回低めの評価となるが、英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目である。評価が4.0の(8)において、コミュニケーション力は遠隔授業でもディスカッションなどを促すことがもっとできたのではと反省する。実は同じことを昨年も反省し、今年こそは遠隔授業のビデオツールをzoomにしてブレイクアウトルームを活用しようと思っていたのだが、出席リストが自動作成されたり、クラスルームから直接入室できるMeetの利便が高く、至らなかった。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）」の評価では、0回の学生が14名で、1回の学生が18名であった。そして、学習量（課題以外に取りくまなかった）においては、ほとんどの学生が「課題が多かったから」などと回答している。こちらとしても、課題をたくさん出しており、その課題でDP/CPを達成するよう意図していたので、内容は妥当であったと評価する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」は(1)4.5,(2)4.8,(3)4.5,(4)4.0,(5)4.6で昨年よりやや上昇した。昨昨年が対面授業であり、昨年後半と今年が遠隔授業であったことを考慮すると、この授業に関しては、遠隔授業の方がうまく機能していることが伺える。今後どのような授業形式を大学から指示されるにしても、遠隔・対面両方の良い点を継続して行える授業形態を模索したいと思う。（その際は、意見交換の場を設ける工夫をしたいと思う）

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そしてその研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと毎年思いながら教育活動の傍ら研究をしている。達成状況としては、総合的には「達成」であり、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、更に予習や復習を丁寧に行えるように指導していきたい。今回は、授業アンケートの自由記述欄に学生たちがたくさん肯定的な感想を書いてくれた。その中でも、文学を前期・後期と継続して行った自分の成長や、和訳の面白みや文学への興味関心への気づきが目立った。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	加藤 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>実際の通訳現場で「使える英語」を身につけるためには、「リスニング」と「スピーキング」の「訓練」が欠かせない。授業ではこの「訓練」をするために、主に以下の通訳技術を教え、繰り返し練習をしてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイック・レスポンス ・リテンションとリプロダクション ・ディクテーション ・シャドーイング ・サイト・トランスレーション ・通訳メモの書き方（記号の種類） <p>また、課題（日本食、日本のスポーツ）についてプレゼンテーションをしてもらったり、実際の通訳現場を想定し、通訳練習をしたりもした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>対面授業だったら、一人一人の学習態度や意欲、理解度に気をくばりながら授業を進めることができるが、遠隔授業だとそれらのことをすべて把握することが難しく、結果的に意思疎通がうまくいかず、学生の思い違いや思い込みが見られた。その点を改善するために、途中から一人一人の意見をくみ上げ、個別に対応をするよう努めた。また、遠隔授業では学生の課題確認に多くの時間を費やし、発音や文法の質問があった場合には個人的に真摯に答え、特に質問がない学生に対しては次回の動画を通して全体にフィードバックをおこなった。課題確認は大変だったものの、学生一人一人にしっかりと向き合え、それぞれの弱点や問題点を指摘し、修正することができた。「通訳」を学びたいというモチベーションがあるため、全体的に学習意欲の高い学生が多かった。それに応えるために、時には授業内容が難しく、指摘も厳しくなってしまったのではないかと思います。授業で学んだ通訳技術や知識を英語全般の学習に活用したり、将来的には英語を使う仕事に活かして欲しい。最終的に再試験の対象者はいなかった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目ということで、「通訳」に興味のある学生だけでなく、将来通訳者に限らず「英語」を何らかの形で仕事に活かしたいという志をもった学生が多かった。「英語」の能力や知識は、いろいろな職業分野で求められることが多く、この知識を将来それらの分野で活かし、さらなる見聞を広めて欲しい。そういった意味でも、カリキュラムマップにおいて、内容的な妥当性が見られたのではないと思う。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の意見として、新型コロナの影響で急ぎ試験内容が変更になったことがあげられていた。気持ちは十分理解できるので、変更になった時点で不利益がないよう詳しく説明をした。試験問題（対面）を作成、提出まで終えていたが、短い時間で遠隔授業用の試験問題を作成せざるを得ず、またそれに伴い授業内容の変更が生じたので、学生も混乱したのではないかとされる。また課題の締切りや出席に関して、Teamsで説明したり、PowerPointの授業資料などでも繰り返し提示したが、それを守らなかったり、出席の呼びかけに応じなかったりしたことがたびたび見られたので、客観的なデータを示し、事実を確認させたうえで、授業のルールを守るよう時には厳しく注意を促した。学生が感情的にならないよう、今後も優しいことばで、わかりやすく説明してきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	
-------------------------------	--

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of the Media I course that students worked on in their first year, though it extends their skill level. The course initially was planned for the iSwitch Mac room, 6208, but because of numbers we were forced to use the Windows room This had an impact on the range of activities we could do. The students also used their home PCS and also used their own smartphones as extension tools. During the course, they completed a wide variety of projects, such as research, using SNS, filmmaking, surveying, and storywriting - all in English.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Completion of Activities, and a Final Presentation. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 84.9% with the lowest being 60% and the highest being 98%.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There were a number of issues within the Year 2 cohort last year resulting in 6 students dropping out of this course. Overall, the remaining students covered the requirements of DP1, DP4, and DP5 well. This was a very motivated class because of the practical and creative nature of the classes.

There was a strong collaborative and social nature to the activities, meaning that students could share their strengths and get assistance with their weaknesses.

This was also a class where they could show their creative side, and many of the projects they completed reflected this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This year we will probably be face-to-face and with a smaller number of students from what seems to be a well-motivated cohort. I intend to tailor the programme to offer students a greater variety of activities and a choice of which to do. Basically, each class would revolve around a topic or skill area, there would be a workshop for students to take part in, and from there they could choose from a menu of relevant activities. I think this system would serve their needs better, particularly in the Mac room.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

This can be a class that is difficult to get a fair assessment of student skills because of the variety of skills, interest levels, and motivation. This will need to be taken into account this year, and with greater use of customised rubrics, this should be achievable. As the course is task- and project-based, there is definitely more scope for personal and peer assessment, and I hope to build these more fully into the assessment system. Many of the activities we do are either easy to self-assess because students can either complete or not complete them, or there is a creative element which they should have more say in self-assessing.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用時事英語	3	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年同様、14回の授業すべてが遠隔授業となったが、今年は昨年の反省や知見を授業に反映できたと考えている。前期の時事英語入門と同様、難解というイメージを伴いやすい分野に対して、より深く興味・関心を持ってもらうために、英語そのものだけでなく、取り上げた内容やニュースの背後にある背景知識にも言及するようにした。また、社説などの比較的長い英文論説記事を毎回取り上げて、応用クラスを受講しているという満足感や達成感をもってもらえるように心がけた。また、応用というクラスを踏まえて、前期入門では実施しなかった内容に関する意見交換や発表などもできるだけ行い、担当教員と受講者間での双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1の知識理解に関しては、昨年と同じオンライン授業であったにもかかわらず、中間試験の平均点が、30点満点中27.1、定期試験の平均値は50点満点で47.4点で、いずれも昨年よりもスコアが上昇しており、教育目標は達成されたと認識している。その一方で、他の担当科目でも生じた現象だが、本科目においても受講者間の能力差が大きかった。積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点の配点に対して16.8という平均値が出ている。これはほぼ全員が毎回何らかの形で主体的に発表を行った結果である。この点は昨年の受講者と同様の結果が出ており、内容に関する学生の問題意識や興味・関心の高さがみてとれた。</p>					
*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

担当教員への意見は記入がなかったが、昨年指摘を受けた内容を自分なりに改善できたのではないかと考えている。今後も受講生と双方向性をもった授業を展開していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展していくという目標は達成できたと思われる。課題としては、前項目で言及したように、学生が快適に授業を受講できるような雰囲気づくりであったり、担当教員の「人間力」を向上させる取り組みが必要であることを痛感している。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅡ	2	後期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course was a continuation of 異文化間コミュニケーションⅠ held in the first semester, but looking at the topic from two specific angles: "tabunka kyosei" in the context of Japanese society, with a focus on immigration and issues pertaining to foreigners and people with multicultural roots, and English as a (Business) Lingua Franca. This approach was partly taken as other approaches that would rely heavily on discussions and activities were felt to be difficult to incorporate under the various COVID-19 related restrictions. However, I tried to make the content more accessible and relatable through inviting guest speakers, using multimedia and internet resources, incorporating research-based activities, and real-life materials and resources.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The majority of the students showed an understanding of the course content through their submitted assignment activities and end of semester reports. In 異文化間コミュニケーションⅠ in the first semester, quite a number of students demonstrated a lack of understanding of how to write an academic paper, and I worked specifically on this in the first week of this class, providing various resources for the students to make reference to when researching for and writing their final reports. This led to a vast improvement in the quality of their papers.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problem regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

While I felt that the majority of students engaged well with the materials, I am concerned that the course became a bit theory heavy, especially regarding the second theme of English as a (Business) Lingua Franca. Although COVID-19 restrictions are still in place, I hope to bring in a more practical focus specifically regarding this theme when conducting the course in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, I felt that the students engaged well with the course, but again, I would have liked to have incorporated a more practical focus, with more discussion and practice-based activities. I feel that doing so would have led to even more engagement and understanding of the course content. While COVID-19 related restrictions do make this difficult, it will hopefully be easier to achieve in the future.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エリア・スタディ II	2	後期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of the course is for the students to research and learn more about a particular area in the world and its significance with Japan. The increasingly important region of ASEAN is the focus of the course with a range of topics being introduced, researched and presented about. Student centered activities intend for the students to learn in more depth about the region and to improve their ability to convey their research results to their classmates. It is also hoped that the students will improve their note-taking skills and their ability to make further inquiries about the material presented by their classmates.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>As the course requires a lot of work and preparation continuously throughout the semester there are a wide range of results. It was, however, reassuring to see that half the students received a score of A or higher. This is a reflection of the interest and effort they put into the course. A score of 4.9 for acquiring new knowledge indicates the achievement of the course's goals. This is further supported by their use of the internet for research purposes, as well as the large amount of regular work they put into the course for review and preparation.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course aims and contents match well with the DPs as described above. The course is also well placed in the curriculum map as it takes advantage of the skills taught in other courses to fulfill its aims.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

With the course evaluation scores in the 4.6-4.8 range, as well as the time and effort that the students indicate having put into the course, leads me to believe the course was a success. Although there was a lot of work for them to do, the majority of them rose to the challenge and did good work, as the 50% of A or higher scores would indicate. Outside of the course evaluation students did, however, mention that they felt there was a bit too much work to do for this one course. In part this can be attributed to the fact that the whole course was online. Being face-to-face may have reduced the burden as more preparation could have been done in collaboration with others.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

It is felt that the course was a success. Maintaining student motivation and interest throughout the semester is the biggest challenge. For more effective use of preparation time and discussion it is felt that a return to the classroom will be most beneficial.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義では、国際関係論の基本的な知識を身に付け、世界情勢を眺め、論じる際に依拠する「自分なりの視座」を獲得することを主たる目的とした。高校時代に世界史・日本史を履修していない学生も多かったため、国際関係史の基本的な事項の解説を含め、歴史の流れを理解してもらえよう努めた。</p> <p>ただ内容的に就職や資格取得に直接かわるものではないため、事前学習や復習を促す動機づけに乏しかった。昨年の反省として、「世界の経済動向にかかわる内容を増やし、彼女らが興味を持っている業界や事象を積極的に扱うようにする」という点を挙げた。今期はこの点に鑑み、GAFANAなどのIT企業や先端技術産業の情勢を取り上げ、これら業界のありようが我々の生活にいかなる影響を及ぼすかを考察してもらった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>テストの平均点は79点、再試対象者は0人であり、本講義の目標である「国際関係論の基本的な知識を身に付ける」という目的はおおむね達成できた。ただ、授業中に習得した用語や概念を使用して自身の考えを披露してもらった記述形式の問題の平均正答率は3割弱と押しなべて低く、「世界情勢を眺め、論じる際に依拠する自分なりの視座を獲得してもらおう」という第2の目標に関しては達成できなかったと自己評価している。その原因としては、国際関係云々のまえに、ものを書く技法・作法がまだ十分に身に付いていないことが考えられる。今年度は、最終試験以外にも、レポートなど一定の量を書いてもらう機会を設け、添削・寸評などのフィードバックを実施し、書く技能を身に付けてもらうよう取り組んでいく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、人文学系の学科内に設置された社会科学系科目に位置づけられる。しかし、国際関係論という学問の特性上、そこには政治学・経済学・歴史学・社会学・心理学・地域研究などのさまざまな学問的アプローチが内包されている。これら多岐にわたる学問的アプローチに触れることは、英語学科で文学・歴史学・言語学を学ぶ学生にも有益であり、内容的にも妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性 学習到達度の学生からの評価でも概ね肯定的な評価を得ることができた。4年生の学生からは、「専門分野は違うが、本科目で学んだ知見を卒業論文で活用した」との声や、NGOで活躍する学生からも「自分たちの活動の意味を考え直すきっかけになった」との意見をもらうことができた。これらの点からもDP・行動目標の観点からも妥当であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から内容妥当性には問題がないと考えらえる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今回の学生からの評価は、幸い「国際問題に関心を持つようになった」「楽しかった」という肯定的なものであった。ただ、彼女らが抱える現代的な興味関心に比べて、授業で扱う題材が時代的に若干古いものであった感否めない。今年度の授業では、授業で扱うケーススタディを全面的に見直し、学生たちにとってより馴染みのある題材をもとにして授業を進めていこうと思う。</p> <p>学生からの授業中の発言は活発であり、内容的にも興味深いものが多かった。(2)で記したように、今後は、そのユニークなアイデアを文章でも説得力ある形で表現できるよう、レポート・コメントカード等を利用し、学生の文章力を涵養する機会を設けていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の目標に関しては、成績やアンケートの状況から概ね計画通りに達成できていると評価できる。ただ、このような状況に甘んじることなく、受講生の達成状況がさらに上昇し、彼女らの知的興味・達成感をさらに満足させられるよう、講義内容を精査していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「資格取得に必要」16%「関心のある内容」67%「単位数を確保する」75%である。前年度からの変化として、資格取得を目指して受講しているわけではないことが示唆される。しかしながら、関心のある内容ということで、興味をもって授業に臨んでいたことがわかる。「単位数を確保する」という動機は最も多く、75%を占めていた。この科目から想像される内容が分かりやすく、取り組みやすい科目であると意識していたといえる。それらの想定を活かし、授業では、高校まで学習した内容とつながりを持たせながら、知識を深めることとしていた。②毎回確認テストを行い、学生や復習したり予習したりできるような時間を設けた。③昨年度は、課題間の連携を持たせること、全体の授業計画の見直しについて十分に周知することを改善点とした。今年度はシラバスを一部修正し課題解決に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者はおらず、全員が標準的なレベルに達した。しかしながら理想的なレベルに達したのは8名と全体の13%ほどだった。学生による到達度自己評価においても、平均すると9割の学生が、自身の目標を達成できたことと述べている。学生による授業評価においてはルーブリック評価を用いたことで、具体的な行動目標を評価基準として、授業内の早い段階で示した。そのことによって、知識のみならず、知識をどのように活用していくかについても重要であることを気づいてもらうことができた。					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP上の位置づけ…本科目は、資格取得に役立つ科目であることに加え、高校まで培ってきた知識をさらに深める科目である。様々な目的の学生がいるため動機付けに苦慮したが、CPの位置づけを意識し昨年度同様授業作りを行った。②DPからの位置づけ…多くは、自分なりの目標を達成したと答えている。さらに、「知識を確認、修正したり、新たに得た」と評価した学生が多く、「さらに学びを深めたいと意欲を持つことができた」学生は95%だった。その結果、学生も一定の成績を取得している。③まとめ…以上のことから、内容的妥当性は担保したと判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

一昨年度の反省から、予習復習を行いやすくなるような課題を設定することを工夫した。今年度も、自由記述に見られるような個々の関心興味に沿って、さらに探求していくプロセスが自然に達成できたように思う。インターネットでどのように調べかという情報収集の在り方も授業内で紹介することができた。次年度も継続して行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今年度も個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間は取ることができた。Zoomによるブレイクアウト機能を用いて、個々の課題に対して全体で議論したり、グループで議論する時間を可能な限りとった。議論の方向を見失わないように、毎回の授業はじめに、目標を具体的に示し、授業内で行うことを明確に提示しておくようにした。来年度も引き続き、授業の目的や行動目標を具体的に伝えたいと、学生がさらに意欲的に取り組めるようにしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「関心のある内容」67%、「単位数を確保する」が75%だった。このことから、昨年度Ⅰを履修していた学生が引き続きの内容を想定して、履修したことが伺える。このような学生の学習準備状況を踏まえたうえで、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」からの連続性を持たせるために、毎回基礎的な知識を確認しつつ、それを応用した「Ⅱ」の内容に入るようにしていた。昨年度の課題であった、コメントシートの提出方法に関しては、遠隔授業であったことを活かし、Googleclassroomでの提出に代えた。今年度もどの学生も円滑に提出することができ、フィードバックも行うことができた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者はおらず、出席不足による評価不能もいなかった。すなわち、全員が標準的なレベルに達し、理想的なレベルに達したのは7名と全体の13%ほどで昨年よりも増えた。学生による到達度自己評価においても、すべての項目で平均値4.6もしくは4.3であり、このことから、自身の目標を達成できていることが分かる。しかしながら、「情報利用」や「図書館利用」に関しては、50%の学生が利用しなかったと答えている。次年度は対面授業になることを想定して、図書館にも実際に足を運んだり有効に活用していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPからの位置づけ…「I」に引き続く内容の「II」であるため、科目の連続性を大切に。「I」のシラバスで習得されたことを、授業初回に確認し、それらの知識を発展させながら、「II」に取り組んだ。さらに折にふれて、具体的な事例を示し、学問の考え方が日常生活と結びつくことを強調し、グループワークにより多様な考え方を引き出した。②DPからは、「様々な課題を検討することができた」「的確に判断する力を得た」項目の平均値が4.5とあり、昨年度より大幅に上昇した。③まとめ…以上の理由から内容的妥当性を担保していると判断した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として「他の課題で忙しくする時間がなかった」という意見があった。これについては、他の科目との関連性を見出し、科目の価値を位置付けるとともに、学生には課題を効率的にできるよう支援したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度評価と授業の質評価の項目において昨年度同様高い評価が得られた。昨年度の課題をふまえて、学生とのコミュニケーションをとりながら授業を進めていくことの重要性を感じた。来年度は対面授業で行われることが決定しているが、遠隔授業で経験した利点を活用しながら進めていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	梅田 勝利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①小テストを第3回、第6回、第9回、第12回、第15回に実施して、受講学生の理解度を測定するとともに、小テストに設けた自由記述欄に記入された学生の意見等を反映して授業の進捗度を調整した。受講動機として最も多いのが単位修得ということもあり、小テストの実施によって、学生は予修をしてくるようになった。</p> <p>②今回は日商簿記検定試験3級合格を目指す受講学生が多かったため、過去問題を希望者に数回分渡したところ、それらをきちんと解答し、その解答について質問をする学生が多かった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①授業の質評価や学習量の評価など、授業満足度を表す結果などから一定の評価が得られたと考えている。例えば、「自分なりの目標を達成した」という問いに「そうだと思う」という回答が多い点が挙げられる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①学習到達度の自己評価や小テストの自由記述欄などからCP, DPに則していると考えられ、内容的に妥当だと考えられる。学生からの評価も概ね良かった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①就職活動に役立つようにと日商簿記検定試験3級合格を目指す学生が授業の進行とともに増えたことは良かったと考えるが、その一方、試験対策のための相談時間が十分確保できなかったと考えている。

②授業の質評価、学習量の評価、情報利用など概ね良かった。特に、1回30分程度以上の予習、復習を6回（3回、11回）行った学生が最も多いなど、積極的に授業に取り組んだ学生が多かった。それらから上手く授業を進めることができたと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際ボランティア演習	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>One aim of this course was to encourage students to think about international cooperation and volunteering through actual experience of engaging in a volunteer project. Another aim was to help them to further develop and strengthen various soft skills, such as planning, organization, leadership and teamwork skills, through participation in a team-based volunteer project. In this course we worked with two NGO/charity organizations. Members from these organizations joined us as guest lecturers, and through hearing directly from them about the areas they work in, as well as conducting research before the guest lecture to gain an initial understanding about each organization and their projects, it is hoped that students could improve their understanding about various local and global issues and about international cooperation in general. Students then chose themselves what organization and what particular project they would like to be involved in during the course, and in their own groups, and with ongoing consultation with the respective organization representatives, they planned, put into action, and evaluated their volunteer projects. Each group had different issues to deal with as the goals of their projects differed, however each group and each individual engaged proactively in their tasks in their own ways, and made efforts to successfully complete their projects, as well as achieve the course aims.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>All students taking the course performed at an extremely high level. They overcame various difficulties throughout the semester by working as both individuals and as a team to achieve their set goals, and through this experience they were able to develop their soft skills. This was evident through observation of their group work during the semester, as well as through their final presentations where they presented their achievements and reflected on their work.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

After the first five weeks of the course where the basis for the volunteer activities was set, the course predominately involved group work, with myself monitoring each group's progress during and outside of class. As each team was a unique dynamic of individuals with different personalities and skills, and engaged in completely different projects, their approaches and progress differed. While I feel that we were able to manage the projects relatively well, the project management element could perhaps have been done more smoothly, and as project management is an example of a soft skill, this could be better incorporated into the course in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, I felt that the students worked extremely well to achieve the various course aims, despite the various restrictions and limitations in place due to COVID-19, etc. In future years, I would like to consider how to organize the course and projects/group work in even more efficient and effective ways, while at the same time being careful to not overemphasize the activity element and to keep at the core the underlying issues of being conscious of the various inequalities in society and our positioning towards them.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童英語教育研究	3	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①後期に続き、遠隔授業での実施であった。「授業時間が学生にとって『安心して学べる場』となること」を目指して、出席確認時の「10秒近況報告」を引き続き実施した。その際、全員がカメラをONにすること、教員が一言コメントを添えることとした。</p> <p>②本授業は、教職関連教科であるが、単位取得のために登録する学生が半数ほどいることから、教科としての専門性を扱いながら質問しやすい配慮やレポート課題による知識理解の充実を大事にしたいと考えた。そこで、レポート課題においては、採点内容の根拠を明記して内容理解を確認した。また毎授業後のフィードバックでは、各自の理解や関心に応じて教員とのコミュニケーションを図れるように計画し、必ず返信コメントを記入することとした。</p> <p>③授業テーマ設定に当たっては、前期の「児童英語教育入門」で学んだことを、より具体的に体験できるように配慮した。教室実践の一助となるよう「Classroom English」の練習や「Activity for Today」による活動紹介の時間を設定した。</p> <p>④発表課題である「模擬授業」は全員が、教師・生徒の立場を体験して互いの工夫を学び合えるようにした。</p> <p>⑤レポート課題やフィードバックの提出遅れ・模擬授業担当日の欠席（やむを得ない事由を除く）の扱いを事前に明確にして学生の評価に対する不安や疑念を除くようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①学生の「到達度自己評価」において、すべての項目が「4.5以上で中間値が5」であることから、学生自身の達成感が高いことがわかる。また、評価指標において、レポート課題における達成度平均値が87%で、達成度80%以上が15名、発表課題（模擬授業）における達成度中間値は82%であるが、受講者の半数は教職教科履修でないこと、達成度80%以上の学生が10名いること、下位2名を除く達成度平均値は84%であることから達成度は十分であると考えられる。</p> <p>②レポート課題・フィードバックの全課題提出者は、それぞれ17/18名、12/18名で個人差を考慮すると課題に対する取り組みも十分であった。</p> <p>③図書館利用については、主に「模擬授業準備」を想定されるが、遠隔授業であることから、資料や教材探しにおいてもインターネットを活用した学生が11/18であった。授業中も、関連資料のPDFに直接アクセスして自習する時間をとるようにした。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性</p> <p>本教科は教職関連教科であるが、「選択科目」である。今年度の履修動機をみると、「必修科目・資格取得に必要」と答えた履修者は61%であり、全体の半数をやや上回るものの、直接資格取得を目指していない学生も多い。授業においては、学生の関心意欲を高めるため、身近な問題や自身の学習体験を想起する場を設けながら授業を進める工夫が求められる。一方、2017年度版学習指導要領（外国語活動・外国）において、「英語の堪能な地域の人材の活用」が明記されていることから、教職志望でない本学卒業生にも英語教育に関わる可能性は極めて高い。その状況の中、学生は一定の成果を出していることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DPから見ての妥当性</p> <p>成績評価において、学生の自己評価は中間値がすべての項目において5、最終成績評価においては18/18名が合格し、秀（6名）優（7名）良（4名）可（1名）であった。特に、発表課題である「模擬授業」においては、各自が工夫し個性を生かして発表でき、さらに生徒役として参加した際にはクラスメートを認め学ぼうとする積極的な態度が見られていた。本学で育まれた学生の誠実さや温かさも発揮される項目であると再認識した。評価場面の工夫は今後も検討すべきであるが、内容的には妥当であったと言える。</p> <p>以上から内容的妥当性に問題は無いと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①「授業の質の評価」</p> <p>すべての項目で「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えており、平均値は4.7以上、中間値は5であった。遠隔授業ではあったが、学生が充実した時間を過ごせたことを知ることができた。コロナ禍による授業活動の制約を考慮した上で、今後も工夫を続けたい。</p> <p>②「学習量の評価」</p> <p>予習・復習を行った学生が少なかったようだが、自由記述によると授業での説明や課題で十分理解が得られたことによるとわかった。</p> <p>③「情報利用への積極性」</p> <p>シラバスを参考に計画を立てた学生が約半数で、授業に沿って学習を進めた学生も半数であった。</p> <p>④「遠隔授業への積極性」</p> <p>欠席0回は13名、1回は2名、2回は1名、3回は2名でほぼきちんと出席できていた。また、ワークアウトセッションを使ったグループ討議や遠隔授業における模擬授業など今年度ならではの活動があったが、積極的に取り組んでいた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①授業前の「10秒近況報告」は、遠隔授業でクラスメートとの交流が制限された学生にとって、受講意欲を高めるほどの効果があった。クラスメートと一緒に学んでいるという感覚が持てたことがその理由であった。今後も、遠隔・対面を問わず、クラスルームが学生にとって居心地のよい参加したい場所となるよう努めたい。</p> <p>②対面授業が再開された場合でも、コロナ禍の収束が確認できない場合、グループワークやグループ討議など学生が相互に学び合う場の設定では、細心の配慮が求められる。幸い全教室のWifi環境が整えられた今、ネットワークを利用した新しい方法による学び合いの場を模索したい。</p> <p>③遠隔とは言え、学生の誠実な授業参加態度や互いを認めて学び合う態度は強い印象を残した。これは、本学により育まれたものであり、学生が本学での学びを誇りに思うとともに、今後の人生においても大事にしてほしいことである。やむなく開始された遠隔授業であったが、学生・教員ともに歩み寄り学びを構築した貴重な経験となったことを明記したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Recently, Project-Based Learning (PBL) has become a popular focus for language learning. Using this approach, students in this zemi worked on projects in English that had a specific goal. For this seminar, we used Sustainable Development Goals (SDGs) as a focus for their learning. Students researched the different SDGs and gave presentations on them, and then examined projects around the world aimed at reaching the goals of the SDGs. Each week, we would focus on one issue using presentations, guided research, discussions, and project planning. We also participated in an SDGs Game activity organised by Kitakyushu City. This was an exceptional seminar group, and all students produced excellent work.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>All students in this seminar class worked extremely well together, and were able to collaborate successfully on our different projects. We collaborated together to formulate a new set of goals and objectives, and the students worked very well to achieve them. Assessment, attendance, and participation have all been of a very high standard.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

As stated above, this group has basically no weaknesses, and have excelled in working towards all DP goals. All targets set by this class were very competently attained.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Now that classes have returned to being face-to-face, we were able to start exploring some of the areas that had been planned for the first semester. For the coming year, we will spend a lot more time on collaborative planning. The personalities in a zemi class have a huge effect on its outcomes and effectiveness, and my focus this year will be on harnessing those skills and positive traits to make a more effective seminar class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As in other years, assessment for this class is based around the students' own self-assessments and peer review. For the second semester, we ended the term once again with the students all submitting a self-evaluation video which they shared with the class. This approach is transparent and collaborative, so there is no need to implement any changes in the foreseeable future.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒業論文のテーマ探しに向けて、仮のテーマを1人1人の学生について複数候補を挙げさせた。テーマは自由に選択できるため、逆に決めきれず、4年生になったあとも一度決めたはずのテーマを急に変更する場合もある。どのような進め方になるのか、3年後期で卒論制作疑似体験をさせることに主眼を置いた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	これを記入している翌年度前期の段階で、全てのゼミ生が卒論テーマを確定し、順調に取り組んでいる。テーマに対する知識や理解、考え方、表現力は今後発展させて行くことになるが、こうした状態を翌年度前期の早い段階から生み出すことができているのは、目標が達成されている左証である。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

妥当である。ただし、英語学の専門性や英語力の向上を突き詰めるというよりも、社会全般の関心事に対する論理的思考・説得力のある文章作成に向けた指導が主となっている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

妥当である。卒業研究への取り組み方を疑似体験させることは極めて有意義である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

良好であり、今後もこの進め方で継続していく。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ゼミ活動では、挨拶やマナーなど社会人になるための基礎的な素養に加え、自由なテーマで3分間の発表を行い、ゼミ活動を通じて社会人基礎力の育成を目指した。毎回担当者はプレゼンテーション資料を期限までに作成し、ゼミ生の前で発表する機会を設けた。ひとり一人が仕事を分担し、責任感や協調性、リーダーシップなどを身につける機会とするよう心掛けた。</p> <p>地域連携活動として、英語を小学生に楽しく学んでもらう活動を行った。広報活動や活動準備、企画書や報告書の作成などを通じて、学生たちは多くを学び、成長する機会となっていた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.6、「説明は理解しやすい物であった」は4.6、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.6、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.6と概ね良好であった。</p> <p>今後も学生中心の活動を多く取り入れ、社会とのつながりの中で成長する機会を多く設けていきたい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.4、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.3、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.4、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」は4.6、「職業選択の参考になった」は4.6と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの人間力、マナー力や社会人基礎力の育成に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。</p> <p>② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流やNGOとの協働等を学生自らが体験出来る機会を設けた。またインターネットを活用して、海外の学生との共同プロジェクトなども実施することができた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業での発表、レポート等については、全員が標準的レベル以上に達していた。また学生の到達度自己評価では、「職業選択の参考になった」という項目について1名の学生が「全くそうでないと思う」と回答していることを除いてすべての学生がすべての項目について、「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答していることから、目標は達成できていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、すべての項目についてすべての学生が肯定的な回答であり、そのほとんどが「かなりそうだと思う」と回答している。全員が同じ方向を向いて座っているため、討論がやりにくい部分もあったが、互いに徐々にやり方や雰囲気慣れ、スムーズに進行することができた。

図書館を利用することはできなかったが、折に触れてインターネットで情報を収集する方法等にも触れたので、ほとんどの学生が授業でインターネットを活用できていた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施し、インターネットでの情報収集については昨年度より改善が見られるが、まだ十分とは言えないので、さらに改善していきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると当たり前ながら「必修科目である」100%であった（この質問にこの選択肢はできればアンケートとして改善していただきたい）。他は「関心のある内容」66.7%、その他の項目は0%である。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。③春休みの課題を出し、卒業論文のウォームアップへと繋げた。④就職課と連携し、グループ面接の練習をしてもらうなど、4年次から就職活動を具体的に開始した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績は、A62.5%,B37.5%である。全員が毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。学生の到達度自己評価によると(1)4.7(2)5.0(3)5.0(4)4.7(5)4.7(6)4.7(7)4.3(8)5.0(9)4.3(10)4.3であった。大変よろしい評価であるが、アンケートの回答率が8名中3名であったので全体の意見を反映しているかはわからない。対面授業でアンケートの時間を取り、さらに教務課からの回答率をあげるようにという連絡も学生に伝えてお願いしただけに残念であった。しかしながら教師の成績でもわかるように、全員準備をきちんとして臨み、有用な意見を発表していた。そこで上記のすべての項目において「達成された」と評価したい。					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	学					
<授業評価の指標>	「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述欄には、ポジティブな意見を記入してくれた。授業内容のことに関しては、「文学作品を読む楽しさを改めて感じることができました。SPIや新聞など、文学作品以外の活動を通して大切なことを要約して伝える力、自分の考えを主張する力、相手の考えを聞き自分なりの意見を構築する力を培うことができました。SPIで新たな知識を習得したり、ニュースに対するゼミ生の考えを聞いたりすることがとても楽しかったです」や「みんなの意見を聞くことができ新しい発見が多く、とても毎週が楽しみだった。SPIの勉強や、時事問題など新聞やニュースの共有などで、とてもためになる授業でした。」などの意見があった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況としては、総合的には「達成」、課題としては、このままの学習意欲を維持させる他、ゼミの授業の中で引き続き新聞やSPIの時間を設け、来年度からはそれにくわえ、マナー講義の時間や、将来的にはTOEICの勉強の時間（5分程度でできるものあ）を設けてみたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Once again, this year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed. In semester 2, rather than work in a specific class period timeslot, we had an open attendance policy with students able to come and go during a whole afternoon I had available. This resulted in considerably more work for me, but it allowed for more student interaction, and consequently, much stronger sotsuron reports. Of course, this was disrupted by the change from face-to-face to online during the second semester, but all students completed the requirements.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>As in other years, though distracted by job hunting and COVID-19 restrictions, this class generally worked well towards achieving their goals. They definitely worked better when offered time flexibility.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

For the most part, this class progressed well, though absences in semester 1 for job hunting caused issues. Support for each other was effective, and 'sotsuron' were satisfactorily completed. Attendance was never an issue, particularly in semester 2 once job hunting had been basically completed.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

From lessons learned in this and previous years, sotsuron writing will be much more structured this coming year with specific deadlines for specific sections. This focus on sections of the report rather than the whole should enable the students to complete their reports in a much more timely manner.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

With a seminar class focusing on sotsuron and job hunting as priorities, it is what it is, so current systems will be continued.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒論の執筆・完成にあたり、論文執筆の作法に加え、オリジナリティーあふれる着眼点を持つことの大切さ、研究倫理の理解や引用の適切性、自分の言葉で他者にわかりやすく表現することの重要性、研究することの醍醐味を学生たちに理解してもらうことを心掛け指導にあたった。卒業論文のテーマについては学生本人が追求したいテーマを尊重し、丁寧に指導することで一人一人が達成感あふれる卒論完成を目指した。学生間での意見交換や自身の論文発表の機会などを設けることで、ゼミ仲間との交流も図りながら各々が高いモチベーションを維持しながら意欲的に書き進めることができるよう工夫した。目標期限内に全員が卒業論文を完成し、提出することができた。ゼミ生全員が4年間の互いの成長と努力を讃え合い、笑顔で卒業式を迎えることができたことは何よりも喜びである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.8、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.8、「説明は理解しやすい物であった」は4.8、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.8と概ね良好であった。</p> <p>ゼミ学生の意見として、「太田先生のゼミを通して自分の苦手分野や短所に真剣に向き合うことができ、自身が成長していくのを感じた2年間でした。この先生のゼミを選んで良かったです。」「卒業論文のご指導ありがとうございました。先生のおかげで無事に論文を完成させる事ができました。ありがとうございました。」などがある。素晴らしい学生たちに恵まれたことに感謝している。学生たち一人一人の4年間の努力とその成果に心からの敬意を表したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.4、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.6、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」は4.7と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの卒論執筆・完成ならびに就職進路の決定に向けて尽力していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 卒業を前にした仕上げの科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。</p> <p>② 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。必要がある場合は、授業外にも時間を設けて指導した。</p> <p>③ 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示し、定期的に進捗状況を確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準的レベル以上に達し、卒業論文も規定に沿って仕上げる事ができた。また、到達度自己評価については、すべての学生がすべての項目について肯定的な回答をしている。学生の卒業論文や課題は十分基準を満たしたものであった。よって教育目標は達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆が当初の計画通りに進めることができなかつたり、データベース、インターネット等を十分活用できてなかつたりした学生もいたことは、今後の課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

この科目は大学でのこれまでの学修の総まとめ的な位置づけである。これまで学修してきたことを用いて学修を進め、最終的には卒業論文にまとめていくという授業内容になっており、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全ての学生が全ての項目について「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。討論する際に、互いに向き合って話すことができず、討論が進みにくいこともあったが、問いかけ等を工夫して、実施できたと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

卒業論文については、個別での指導をかなり実施したり、互いに学ぶという観点から、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションしたりしたことは、各学生の論考を深める点で効果的だったと思う。また、インターネットやデータベースの利用について十分指導する時間を取ることができなかったので、活用に苦慮した学生もいたようだが、個別に対応した。卒論の個別指導については、Meetも併用したため、例年よりも細やかな指導ができたと思う。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」100%「関心のある内容である」28.6%「単位数を確保する」42.9%であった。ちなみにオリジナルメンバーは全員第一希望でこのゼミに入り、残り3人は退職した先生ゼミから希望としての移動である。総勢13名という大所帯のゼミであった。②授業の初めに就職希望先に関係ある新聞を分析発表する活動をし、就活の面接対策にした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、授業コード12106505がA45.5%,B27.3%,C27.3%で、1278505がA100%である。ほぼ全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだが、やや欠席が多めの学生もいた。学生の到達度自己評価によると(1)4.1(2)4.4(3)4.4(4)4.1(5)4.0(6)4.3(7)4.0(8)4.0(9)4.3(10)4.0で総じて良かった。やや欠席が多めの学生でさえ、ゼミに来た日は準備をきちんとし臨み、有用な意見を発表するなど積極的に参加していたし、最後まで卒論がなかなか進まなかった学生もいたが、なんとか終わることができた。そこで上記のすべての項目において「やや達成された」と評価したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の項目においては、ほぼすべての項目において、学生全員が「かなりそうだと思う」を選択している。図書館の利用は、7名中(1)①6②1(1)①7②0(3)①3②4であったが、様々な分野のテーマを扱った卒論の内容の特性上、図書で調べるといよりは、ネットなどの最新情報に所以する研究内容であったので仕方ない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

毎回活発な議論を交わし、お互いを思いやる大変良い雰囲気のゼミで、就職活動発表会においては、全員が学年全体の代表として発表するなど、良い就職先を確保したことも、日頃の積み重ねであったと評価したい。アンケートの自由記述欄には7名中6名の学生がたくさんポジティブなコメントを残してくれた。例、「私は普段本を読むことがないので、この授業で文学に触れ、主人公の考えや作者の伝えたいことなどを考える時間はとても勉強になり、学びが深まりました。卒論は、完成までにごく時間がかかり、締め切りまでに間に合うか不安でしたが、先生が最後まで協力してくださったおかげで納得のいくものができました。特に、参考文献の書き方に悩みましたが、ためになりました。ありがとうございました。」

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course aims to have the students complete a research paper for their graduation. At the beginning of the course there was some concern that some of the students were not completely prepared for this course, so it was important to provide as much support as possible. It was very helpful to have the classes face-to-face as it allowed for better support not only from the teacher but from their peers.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The completion of research and the corresponding thesis paper was accomplished. The process didn't go as smoothly as had been hoped, considering that we were back in the classroom. Progress was slow. Students often focused on job hunting and set their thesis work to the side. In general, though, they were interested in the material and tried hard to succeed with the course. When they did do the work they did a good job.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is the pinnacle of their studies at university. As such, it is felt that the course fits well within the curriculum map, with the expectation that the students would use all that they had learned over the last few years to complete this course. Their attitude during the course and the kind of work that they accomplished reflects well on their accomplishments.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although the goals of the course were achieved I felt that the students needed more support than I provided. This year the students were given more detailed feedback and guidance about the thesis writing process. Even though more support was given than in the previous year, as the graduation thesis is a big project the students could have done with more examples and information to complete the required work. In particular they need more support to maintain motivation for the duration of the project.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The course was successful as it achieved its goals. As mentioned above, though, the process and support could be improved to help the students have a better experience and to gain more from the whole process.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension I	1	通年	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (27/38) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 94.4%, with a high of 100% and a low of 63%. Standard deviation was 12.4.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still hampered by restrictions next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension II	2	通年	必修	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (19/56) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 78.9%, with a high of 100% and a low of 60%. Standard deviation was 25.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still hampered by restrictions next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension III	3	通年	必修	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (11/41) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 87.4%, with a high of 100% and a low of 63%. Standard deviation was 12.1.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still hampered by restrictions next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension IV	4	通年	必修	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Our usual programme was severely constricted because of the COVID-19 situation. We were unable to offer many of the events and activities we normally do, and had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (13/54) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 82.0%, with a high of 100% and a low of 61%. Standard deviation was 14.2.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Our goals for the coming year are largely reliant on whether the COVID-19 pandemic can be contained. If we are still hampered by restrictions next year, we will continue with our strong English Lecture program. If we have a return to regular classes, we are ready to roll out a wide range of learning opportunities and activities. In its current state, we are satisfied with the work we are achieving in this course

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○全学科：平均点92.3点、秀48人 (73.8%)、優12人 (18.5%)、良4人 (6.2%) 可2人 (3.1%)、不可0人 (0.0%)。SD8.41。</p> <p>○英語学科：平均点91.6点、秀6人 (85.7%)、優0人 (0.0%)、良0人 (0.0%) 可1人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD12.41。</p> <p>○英語学科 (昨年度)：平均点75.1点、秀4人 (19.0%)、優5人 (23.8%)、良3人 (14.3%) 可8人 (38.1%)、不可1人 (4.8%)。SD16.4。</p> <p>○昨年度と比較し大幅に得点が上昇し、ほぼ秀となった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○昨年度と同程度の学習内容・程度であり、試験に関しても同様であった。

○本年度は次の2点に取り組んだ。(1)レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。(2)オンラインで繰り返し学習できる復習テストを充実させた。

○また、オンラインでの試験であったため、試行を複数回行った。

○到達度が非常に高かったのは、試験形式に慣れると同時に、それが復習の機会となったと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

○本年度は非常に満足できる結果であった。

○1名のみ達成度の低い学生がいたが、全ての受講者の動機付けを高める工夫をしたい。

○次年度は対面授業の予定であるため、本年度とは異なる条件で授業を行うことになる。ICTの利点を生かした学習を促すとともに、教材や授業実践の工夫を行いたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう努めた。遠隔授業では難しい部分もあった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者は0名で、ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生による到達度自己評価は、すべての項目について全員が肯定的な回答しており、この点からも教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、すべての学生がすべての項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、授業の進め方については概ね適切であったと考える。しかし、オンラインでは活発な意見交換を行うことがなかなかできなかったため、皆で意見を交換しながら考えを深めることが難しかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績は、概ね良好であり、全員が標準以上の理解に達していると考えられる。授業の課題以外についても質問や相談をしてきた学生もいて、授業の内容にとどまらない発展的で総合的な学びに繋がっている状況もある。この科目は「英語教科教育法II」「英語教科教育法IV」へと続いていくので、今回明らかになったことを踏まえ、授業の方法について工夫していきたいと思う。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語教科教育法Ⅲは、英語科教職課程の必修科目である。学生たちは、これまでの英語教科教育法Ⅰ・Ⅱでの学びを活かし、中学校英語教科書を使用し模擬授業に臨んだ。学生たちは各々事前に指定箇所の学習指導案や板書計画、配布資料等を作成し、模擬授業の準備に計画的に取り組んだ。学生らには授業中の発言なども多く求められるが、積極的に発言し授業に参加していた。コロナ禍での遠隔による模擬授業準備等で苦労もあったが、これからの新しいICT機器を活用した教育方法を実践的に学ぶ上では有効であったと考える。学生たちは、模擬授業に向けて授業計画や資料の準備に尽力しており、各人の成長も大きい授業であったと思われる。学生たちの努力が教育実習や教員採用試験の結果などに結実することを期待する。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.8、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.8、「説明は理解しやすいものであった」は4.8、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.7、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.7と概ね良好であった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.8、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.7、「職業選択の参考になった」は4.8と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および教科指導技術の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。また、来年度、教育実習に行く準備段階の科目でもあるので、実践的な内容になるようにした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者は0名であり、全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生による到達度自己評価は、すべての項目について全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、この点からも教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、すべての項目について全員が「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は4.1から4.6、中央値は4.0から5.0であるので、概ね目標は達成できたと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教職に対して熱心な学生が多く、どの項目についても肯定的な項目に回答する学生がほとんどで、最終的な成績も良好であった。本年度は遠隔で模擬授業を行わなければならない、試行錯誤の部分が多かったため、学生にとってやりにくいことが多く、スムーズにいかないところもあった。遠隔で模擬授業を行うことについて、あらかじめ留意点等について話し合ったが、想定外のことが起こることもあった。それらの点も含めて、来年度はよりきめ細やかな指導を心がけたいと思う。